

女性交流センターには

女性の方の相談窓口 があります

(女性交流センターは市民会館の3階にあります。)



毎週火曜日から金曜日

午後1時～午後4時 (祝日・年末年始除く)

電話 または 面接での相談



毎月第3火曜日

午後1時～午後4時

①13:00～ ②14:00～ ③15:00～ (各50分)

面接相談で予約が必要です。託児も行っています。

専門のカウンセラーが相談に応じます。

お問い合わせ・申込み 赤穂市役所 市民対話課 43-6818

赤穂市女性交流センター 43-7800

FAX 43-6810

相談は無料です。家庭のこと・人間関係・DVなど、お悩みを話してみませんか？話の内容は堅く守られますので安心して気軽にご相談下さい。

専門カウンセラーの相談日 9月は17日(火)

10月は15日(火)です。



女性センターには、女性問題・男性問題に関する図書・行政資料をそろえ、誰でも自由に閲覧できるような情報図書コーナーがあります。ここでは女性センター蔵書を中心に、注目図書をご紹介します。

ヨチヨチ父 ーとまどう日々ー

ヨシタケシンスケ 赤ちゃん和妈妈社刊



ヨシタケシンスケさんは、絵本作家さんです。

ヨシタケさんが実際に育児を体験し「パパ目線の初めての育児」というテーマで書かれています。

忙しく時間を切り盛りしながらの育児中、ふと夫を見ると周囲に関係なく自分のペース。そんな夫にイラッとしたママはいませんか？本に書かれていることがどのパパにも当てはまることはないけれど、パパ(相手)の思いを少し知って、お互い理解しながら初めてだらけの育児をのりきってってもらえたら。パラッと読めるので気分転換にどうぞでしょう。夫婦で赤ちゃん特有のにおいを吸い込んでいるページを見て、そうだったなあと思い出しました。

被災ママに学ぶ 小さな防災のアイデア 40

アベナオミ 学研プラス刊



アベナオミさんは、イラストレーターでもあり防災士さんです。

ご自身が被災され、その時の様子や日々の防災アイデアなどを書かれています。震災その時～震災1ヶ月が漫画で描かれていて、その中でも震災翌日の一日の様子が時間を追って描かれているのを見ると現実味が増しました。「被災後に待っていたのは震災前の自分への後悔でした。本当に、ほんの少しだけ気をつけていればよかったことだらけでした。」のアベさんのこの一言に尽きるように、特別なことでなく意識を変えるだけの備えをやってみようと思わされます。今号よりこの本に書かれている小さな防災のアイデアを欄外↓で紹介していきます。(女性センター蔵書)

ちいさな防災のアイデア

車のガソリンは、メーター半分になったら給油！！

災害後、車が動くか動かないかで避難生活のしやすさは大きく変わります。ガソリンが十分であれば遠方まで買い物に行くことができ、通勤にも困りません。(被災ママに学ぶ 小さな防災のアイデア 40 より 引用) 車は一時避難の場・移動・情報収集・携帯の充電にと有効ですね。



発行/赤穂市市民部市民対話課 (☎43-6818)・女性交流センター (☎43-7800)